

NPO 法人松山子ども劇場21 20周年記念例会 part II

第117回舞台鑑賞例会(舞台劇)



まとめ集



日時：2022年9月17日(土)

開演：14:00

会場：愛媛県生活文化センター 3階 大広間

みんなの感想

「生の舞台、とくに物語の鑑賞には、とても大きいエネルギーが必要です。テレビやビデオなどは途中で止められますが、舞台はドンドン引き込まれていきます。ばばさまの嫌な予感が当たらないように願いながら、客席に座っているのは大人でも辛いことでした。人間の欲って悲しいと、心からおもいました。」大人

私は殴られたおこんを必死に助けようと歌えないじょうりを何度も歌う場面が記憶に残りました。必死に助けようとするおばあさんの優しさや、いつまでも諦めない姿を見て、私も他人を必死で助けられるような優しい人になりたいと思いました。また、自分の始めたことを最後までやりとげるために絶対に諦めない人になりたいです。13歳

原作の絵本は文字が多くて5歳の息子に読み聞かせるのはなかなかで、舞台を観て分かるのかな?と思いながらの観劇でした。案の定・・・途中で集中力は切れてしまいましたが、場面場面で笑ったり、どうして泣いてるの?と聞いてきたり、息子なりに「おこんじょうり」の世界を感じていたのだろうなと思います。絵本ではわからないのが、おこんとばばさまのじょうりの上手い下手加減です。おこんがばばさまに教えようとする時の二人のかけ合いが息ぴったり!面白く、楽しくて、幸せそうな二人の時間を感じることが、生の舞台ならでは!と思いました。大人

舞台装置も衣装もとってもミニマム(最小限)。なのにとっても心に残る作品でした。少し配置が変わると寝床になったり岩場になったりの舞台装置。十人近くを演じていたはずの川松さんですが印象に残るのはかわいいおこんだけ。前回観劇した時は「え?二人だけのお芝居だったの?」とびっくりしたのを覚えています。今回印象に残ったのは、おこんを弔うシーンです。演者さんの衣装がどんどん、おこんの亡骸になっていく様は大切な人を弔うお葬式を見ているようでした。生きるものが死んで動かない骸に変化する“自然の摂理”を感じることができる名シーンだと思いました。原作絵本の読み聞かせをし、悲しいお話しだと感じた子どもたち、大人も、ラストにこんなに希望をもって生きていこうとしている、おばばさまに出会うことができ、この劇を通して、どんなに安心し嬉しかったことでしょう。素晴らしい舞台劇をありがとうございました。別作品でもぜひ来ていただきたいです。大人

ばばさまのうた(じょうり)が面白かった。昔の話しかなのと思った。子ども

心に残る舞台でした。おこんとばばさまの関係がずんずん近付いていくのが伝わってきました。うたが上手でした!!大人

最愛のおこんをなくして哀しみが胸に迫ってきました。人は“ひとり”では生きられないし、たとえ“ひとり”になっても、また歩いて生きてゆくのだというメッセージ確かに受け取りました。大人

おこんとおばあの心のふれあい、やりとりで癒されました。舞台もシンプルなのに上手に工夫されていて景色が目に浮かび引き込まれました。とても心に残る舞台になりました。大人

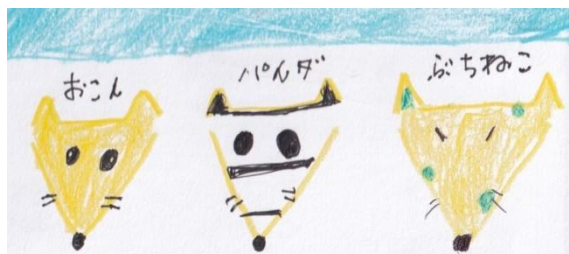
おこんがさいごに死んだところが悲しかった。声の変化がおもしろかった。おばあのじょうりがおもしろかった。衣装がかわって行っておもしろかった。またみたいです。子ども

おこんの死が暗く感じなかったのは、はじめの朗読のじべたっこさまから始まったことによって、おこんは、じべたっこさまになって、いつも側にいてくれるのだと結びついて心が温くなりました。大人

子どもが生まれたり、忙しかったり、お芝居を観るのは数年ぶり。子どもと一緒に芝居を楽しめて感激。コロナ禍で観劇もいつになったら・・・と思っていたところにお誘いがあった嬉しかったです。おこんじょうりは、むうのお二人がのびのびと演じられて、ほっこりしました。声がよく通って生っているなとしみじみしました。4歳6歳の子どもたちが集中して夢中になっていたのも嬉しかったです。おこんのさいごに涙しました。笑いあり、涙あり、とっても素敵な時間をありがとうございました。大人

すごくおもしろく、みている方も楽しくなりました。子ども

おばあさんの占いがぜんぜん当たらないのに対し、きつねが歌を歌っただけで病気が治ってしまって、おばあさんがその歌を覚えようと思った、おばあさんの歌がおもしろかったです。子ども



ブロックまとめ

もぎりの様子



プレゼント渡し

劇団との打ち合わせの様子



集合写真



みなみブロックの感想

小町ブロックと一緒に取り組みました。

みなみブロックとしての取り組みを始める前に小町ブロックと打ち合わせをすることができたため、各ブロックでの担当割り振りができブロック内での分担が決めやすく良かったです。

例年は事前に集まって交流をかねてブロック会をしていましたが、今回はラインでの当番当日の打ち合わせがメインとなってしまいました。しかしはじめての会場だったため会場の下見には数名が参加し、会場づくりや飾り付けの仕方などを相談することが出来ました。

9月例会を楽しむためのみんなの集いに、みなみブロックの子どもたちも参加し、ステキなウェルカムボードを作成。当日の会場の飾り付けも持ってきた折り紙やテープでにぎやかな飾り付けを楽しみました。

検温のお願いや開場前のあいさつ、プレゼント渡しと子どもたちもいつも通り行い、はじめて当番に参加してくれた子どもさんは、受付とプレゼント渡しを緊張しつつもしっかり頑張ってくれました。

終演後の片付けも最後まで行い、久しぶりの昼例会でいろんなことに携わり長くても楽しい日となりました。参加できなかった人もいましたが、こうして例会の時に子どもたちが力を合わせて例会を楽しく迎えられるのは子ども劇場ならではの、次回はブロックでの交流もって例会当番をしたいなと思いました。

みなみブロック 弓立佳子

小町ブロックの感想

昼公演ということで選んだ年に一度の例会当番。キャリアの長い会員さんにとっては9年ぶりの劇団「むう」フレッシュな幼児をもつ会員さんにとってはなじみの薄い和物の児童文学「おこんじょうりり」

ブロックの取り組みとしては、幼児をもつ会員さんに「おこんじょうりり」の本を配布。次に小学校の図書支援員さんをしている会員さんにおはなし会を（コミセン和室にて）ひらいてもらいました。コロナ下でイチマツの不安もありましたが、「お友だちも一緒にどうぞ！」終わったらコミセンこども館に仲良く直行している姿をみると、夏休みの楽しい1ページになったと思います。

例会当日の当番のお仕事は「みなみブロック」とはんぶんこ!! 役割分担もスムーズにできてよかったです。めったにない和室での例会。イメージがなかなか湧きませんでした。事前の会場下見でみごとクリア。開演までの準備もスムーズにできました。「むう」さんへのプレゼントも事前イベントでつくった野菜スタンプと手形スタンプの色紙で手作り感満載!! welcome board も素敵なものができました。舞台の後片付けはほとんど「むう」さんが…私たちは1Fまで大道具やら小道具を運ぶだけでしたが、軽ワゴンに積み込む様子はまるでマジック!!見たことがない会員さんはびっくりしたことでしょう。

小町ブロック長 岡本 久美子

小町ブロックお話し会の感想

8/23 コミュニティセンター和室 参加者 12人

話し手 木村さん

例会の「おこんじょうりり」に併せて、事前学習会として原作のおはなし会をおこないました。コロナ禍になって初めての対面読み聞かせで、長年子どもたち相手に読み聞かせしてきた身でも、かなり緊張！幼児を含む参加者ということで、あの原作丸ごとでは集中力持たない、と冒頭のみを読み聞かせにしました。例会で続きを楽しんでもらうのも、ワクワク感が増すかもという意図です。これに何冊か絵本を加えました。「知ってる!」「幼稚園で読んでもらったよ。」という声もあがり、緊張感がほぐれました。最後に、本や図書館に関する質問コーナー。この中であるお父さんから「図書館の本が分類番号順にきちんと並んでいると、一見倉庫のように感じる。そうではなく、テーマごとに別置きされていると興味がわいて、借りてみようかなと思うんです。」という意見が出たのが、印象的でした。まさに大正解。少し長めのおはなし会でしたが、「楽しかった」という感想も寄せられ、読み手としても久しぶりに読み聞かせができて、嬉しかった一日でした。

参加者 吉田さん

読み聞かせ会を開催してくださりありがとうございました。始まるまでは賑やかにしていた子どもたちも、木村さんのお話が始めるとすっかり引き込まれて物語を楽しんでいました。9月のおこんじょうりりのお話も一部ご紹介していただき例会が楽しみになりました。絵本を読んでから舞台を楽しむか、逆にするか悩んじやいました。



朗読ワークショップ

開演30分前に挑戦しました。むうさんから『地べたっこさま』の詩が貼られた素敵な和紙の台紙の台本を配られました。どこを読みたいか希望を取られ、子どもたちは積極的に、自分の読みたいところに手を上げていました。子ども達みな、一声目からなかなか良く声が出ていましたが、むうさんから遠くの人に声をとどけるようにとアドバイスをもらおうと、さらに大きな通る声を出すことができたので驚きました。役者さんから直接ご指導して頂いたことはとても誇らしく貴重だったことでしょう。

子どもたちの朗読から、舞台は始まりました。子ども達みな、堂々と、詩の内容を分かりやすく伝えることができていたと思います。詩の最後に「こころやさしくて 勇気のある人にはその音がきこえるはずだ」という所は、会場にいる全ての人のことだなど、朗読してくれた4人から伝えてもらいました。

朗読をやってみての感想

ゆみこさん まりこさん

参加する前は上手にできるかなあと不安でしたが、むうさんの指導はわかりやすく、早口なのをゆっくり話すように言われました。舞台での発表は緊張したけど楽しかったです！（まりちゃんと思ったより揃うことができました。ゆう君とは…w）朗読ワークショップの『じべたっこさま』の話が『おこんじょうり』の途中でも沢山出ていて、この話繋がってたんだな～と感じました。

ゆうくん

ワークショップには何をするかわからず参加しましたw 舞台上に立つのは聞いてない！と驚きましたが、特に緊張はしなかったです。ゆっくり話すことを意識して朗読しました。

ことこさん

朗読のとき、めちゃくちゃ緊張しました！！！！けど、じべたっこさまをみんなで言ったのが楽しかったです。



事後交流会

例会直後に20分ほど、むうさんに直接質問する時間をもらいました。あんなに腰が曲がったばばさまや飛び跳ねていたおこんとは全く別人が出てきたと思ったお子さんもいるのではないのでしょうか？汗をかき、お疲れだったと思います。舞台が終わられて穏やかで明るい笑顔が印象に残りました。

Q：セリフはどうやって覚えるの？

A：ひたすら読んだり、稽古したりします。こう言ったらこう返すというような会話で覚えたり、動きと一緒に覚えたりします。子どもはすぐに覚えられると思うよ！

Q：「むう」ってどんな意味？

A：2人で活動を始めて17年。初めの時にどうしようかと考えて、ま行は優しい音(ママとか)なので、小さい人も言いやすい。まあ、みい、むう…と良い響きを選んで「むう」に。特に意味は無いです。覚えてもらえたら良いなど。

Q：虫ってどうして動くの？

A：生きているからだよ。

(本人いわく、思った通りの答えで良かった、とのことでしたw)



Q：年間どのくらい公演しているの？

A：年によってバラバラです。今年は15日くらいかなあ。おやこ劇場・子ども劇場で回るのが主で5~6回、全国いろいろ行ってます。コロナの2~3年は特に少なくなりましたが、それまでは平均60日くらいの公演でした。あまり多くは無いと思います。

Q：2人だけで、誰かに見てもらうことはあるの？指導を受けたり。

A：演出のいのこ福代さんに見てもらいます。

「おこんじょうり」は15年前に作った作品で、その時は演出(いのこ福代さん)だけでなく、衣装(後藤優子さん)や音楽(野田広人さん)など、一緒に作ってる人に見てもらっていました。



Q：(むうさんから)子どもたちに、面白かった活動は？

A：いろいろ楽しかった！(司会から)手形でウェルカムボードを作りました。

～素敵！ありがとう☺

舞台鑑賞事業部

参加者 60名 会員参加 45名 参加率 51%

8/23 9月例会を楽しむためのみんなの集い 参加者 20人

原作絵本の読み聞かせ・お礼の色紙と会場の飾り、ウェルカムボード作成

当日 朗読ワークショップ

事後交流会

「形は残らなくても想いは繋がっていくよ」

今回は、20周年記念例会パート2として、様々なことを織り込み取り組みました。2013年に上演して2度目の「おこんじょうり」。今回の例会では、事前企画として原作絵本の読み聞かせや野菜スタンプでウェルカムボードを作りました。当日には、劇団むうさんと子どもたちが一緒に朗読の練習をし、開演前に朗読をしました。そして優しいばばさまの語り口に聞き入り、おこんじょうりの劇がはじまります。目の見えない気弱になってるイタコのばばさまと、お腹を減らしたキツネおこんとの出会い……。イタコのばばさまとおこんが2人力を合わせれば、お腹を空かせることも寂しくありません。軽快なおこんのじょうりに、ばばさまのヘンテコなじょうり、2人の掛け合いに会場みんなが笑いの渦に巻き込みます。そんな楽しい日々にある日、暗雲がたちこめます。2人がお城で褒美をたんまり貰った帰り道、暴君に襲われ、おこんは息も絶え絶えに。ばばさまは必死におこんじょうりをうたいます。それをおこんは、下手だなあと笑い、ありがとうございます。おこんが亡くなったあともばばさまは後世に伝えるために、おこんじょうりをうたいます。姿かたちがなくなっても、その人の想いや願いは永遠に人の心に残り続けます。

とても暖かい気持ちになれた例会でした。

舞台鑑賞事業部 宇都宮 愛



9月例会を楽しむためのみんなの集い